

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100774		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	宮崎市大字島之内2752番地		
自己評価作成日	平成29年7月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成29年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺は、田畑が多くあり、自然の中でゆつくりと生活が送れる環境である。又、少し足を延ばすと商店や駅があり、必要物品の購入や交通手段も整っている。敷地内には、特別養護老人ホームやデイサービス等があり、事業所が孤立せず他部署からの協力を貰える体制が整っている。事業所内は、木材の温かみを感じる事が出来る造りとなっており、天井は吹き抜けで圧迫感を感じる事が無く、生活出来る共有スペースを確保している。夜間帯は、警備保障会社のセキュリティにて安全確保を行い、警備保障会社の火災監視システムを導入する事で火災の際の応援体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には、法人の他の施設があり、防災訓練、職員研修や災害時の備蓄品や宿直体制等、協力体制が整っている。警備保障会社のセキュリティにて、夜間の安全確保や火災時の安全が確保されている。地域住民との避難訓練も実施され、毎日の夕食の買い物等で日常的に地域と関わっている。家族の意見を職員間で話し合い事業所に活かしていく取り組みにも臨んでいる。職員は「人生に学び敬愛に徹し、感謝、朗働を尽くす」という理念を大切に利用者と接している。又提案を行ったことが採用されることで、働く意欲に繋がっている。運営推進会議での提案が防災訓練に活かされた事例もある。(※理念の「朗働」という語句は、想いを込めて作られた造語である。)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と職員間で話し合いを行い、スマイル独自の理念を掲げている。理念は、誰もがみれる場所へ掲示を行い、職員間でも理念が共有出来る様に意識付けしている。	法人の理念を基に、事業所独自の理念を職員全員で話し合って作成した。言葉の具体的な意味も、職員それぞれが説明できている。今までの生活の継続を大切にする理念となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへ買い物へ出掛けたり、文化祭や福祉祭り等への参加を行っている。又、近隣の奉仕作業を計画、実施したり、地域住民による演奏会、行事参加、避難訓練への参加もある。今年度は、地区のサロンへ参加する予定である。	夕食の買い出しに利用者も一緒に近くのスーパーに出かけ、日常的な交流がある。奉仕作業として、利用者と職員と一緒にゴミひろいを行っている。地域の文化祭・福祉祭りに参加し、知人と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する取り組みやグループホームについて話す機会は設けている。今年度は地区のサロンへ出向き、事業所の説明と認知症予防について話をする機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子や取り組み、利用者に関する事項等、資料を作成し、毎回、報告を行っている。又、事業所で抱えている問題や改善事項についての意見を頂き、今後のケアに活かせる取り組みを行っている。	会議は場所の関係で特養で行われるが、会議のメンバーはグループホームに出向き、利用者の生活の状況を見ることができる。会議で提案された地震災害時の頭巾を作り、避難訓練にも活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内において発生した課題や取り組みについて不明な点、助言を頂きたい際には、担当者へ連絡を行い対応、解決出来る様に取り組んでいる。	外部評価による、自己評価、外部評価の結果を報告したり、事故報告、運営推進会議の報告を行いながら、関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を実施している。勉強会で学んだ事を日々の現場でのケアに活かせる様に話し、場面毎の指導も行っている。	定期的な勉強会の中で職員に伝えている。そのような場面があった時は、状況を見ながらその場や、別の場所で指導を行う。職員も虐待や抑制が利用者にとって大きな負担となり、介護の手間として逆効果になると思っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加をしている。参加した職員からの伝達講習が出来る機会を設定し、職員間で情報の共有が出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中でこれらの制度を利用されている方はおられない。今後、制度の活用が必要な方がいないか、家族等の現状を把握し、必要性がある場合にはそれらを活用出来る様に支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安、疑問点等を聞ける様に配慮している。契約や解約、改定等の際には御家族へ十分な説明を行い、納得、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を伝え易い様に利用者やご家族と日頃から信頼関係が構築出来る様に努めている。今年度は、ご家族同士が交流を図れる様に交流会の開催も行った。頂いた意見に対しては、今後のサービスへ繋げる事が出来る様に取り組んでいる。	面会も多く、日頃から信頼関係を築くように努めている。5月に行った家族との交流会では、職員手作りの料理でバイキングを行い、その後、家族のみでの意見交換を行った。意見は直接管理者に伝えてもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議や必要に応じて会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。事業所内にて解決が難しい事項や改善を要する事項に関しては、代表者からの助言やアドバイスを頂いている。	部署会議の中で、意見を出している。職員が提案した勤務時間の調整や、利用者に対する遠出ドライブの意見が取り上げられた。年1回行われている法人内の事例発表にて、今年度は業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や勤務状況について報告を行う環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修会へ参加する事が出来ている。職員の経験年数等に応じた研修会への参加が出来る体制も整っている。又、職員自ら参加したい研修や資格取得等の申し出があった際には勤務の調整等を図れる様に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内職員との交流会や勉強会への参加を行い、交流を図る事が出来ている。宮崎県のグループホーム協会へ入会しており、研修会や意見交換会への参加を行い、サービスの向上が出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人が困っている事や不安を感じている事を聞く機会を設けている。本人の意見に耳を傾けながら、安心して入居して頂ける様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった段階でご家族や本人との面接・施設見学を行っている。その際に、ご家族が困っている事や不安な事を聞き取れる様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・担当の介護支援専門員等との面談を通して本人が必要としている支援を見極める事が出来る様な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と過ごす時間を大切にしている。一緒に過ごす時間の中で、本人の喜怒哀楽に寄り添い、お互いの関係が構築出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は特に時間を設けず、いつでも本人と過ごせる時間を大切にしている。ご家族間や本人との関係性を早い段階で汲み取り、関係性が悪化しない様に支援している。又、面会時には、近況報告を行い、ホームでの生活の様子を伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を通じて、以前生活を送っていた場所や地域の訪問、馴染みの人との面会等も行っている。ご家族の協力も頂き、病院受診後に故郷訪問ドライブや食事、墓参り等を行っている。又、友人・知人との手紙のやり取りや電話、面会等も積極的に取り入れており、関係が途切れない様に支援している	外出支援の中で、馴染みの人や場所を訪問している。又、手紙や電話で関係が途切れない工夫をしている。家族あての年賀状や、七夕での家族に向けたメッセージ作成を行った	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での関係性を把握し、利用者が孤立しない様に職員が利用者の中に立ち、関わりが持てる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約期間が終了しても困っている事や相談が出来る様な関係性を構築している。実際に困った事があった際にはホームへ来られたり、電話連絡にて対応した経緯もある。退所した際には、施設や病院への訪問も行っており、利用契約終了後もフォローが出来る様にご家族と連絡が取れる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や行動・ご家族からの情報をもとに意向の把握に努めている。又、職員は、共に生活を送る中で馴染みの関係を構築し、何でも話し易い様な雰囲気になる様に努め、本人の希望や意向を聞き取れる様にしている。	本人の情報の中から話題を見付け、本人と話す中で表情等から思いを把握するように努めている。10時のお茶は職員も利用者と一緒に頂き、意向の把握に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当介護支援専門員・施設関係者・ご家族・親族・本人からの情報をもとに生活歴や馴染みの暮らし等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録や各チェック表等を活用し、現状の把握に努めている。又、職員間で情報を共有出来る様に申し送りノート等の活用も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・親族からの情報をもとに意見を集約し、介護計画を作成している。職員や担当者からの情報も収集し、介護計画に反映し、定期的な見直しと共に、状態変化があった際の見直しも行っている。定期的な評価も実施している。	利用者毎の担当制であり、半年毎の見直し、3か月毎のモニタリングでは、担当者からの意見を取り入れている。家族への報告書をケアプランとは別に作成し、見直し毎に渡ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録を活用し、日々の記録を行っている。気付いた事や取り組んだ内容・ご家族とのやりとり・医療機関受診時の情報等も記録として残す様にしている。生活日誌や個人ファイルを活用し、職員がいつでも閲覧出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を踏まえて、その時のニーズに応じて法人内・外への相談が出来る体制が整っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や地域住民からの協力を頂きながら、本人が出来る事を見極め、地域の中で生活が送れる様に支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を入居後にも継続出来る様に配慮している。夜間の急変、それ以外の突発的な病状変化の際の対応方法についても個々のかかりつけ医との連携が図れる様にしている。いつでも相談・対応が出来る様に状況に応じた医療を受ける事が出来る様に支援している	利用者個々のかかりつけ医を継続している。かかりつけ医からそれぞれ指示のあった病院への受診も家族協力の下行っている。看護師は、日々の記録の中から病状変化をかかりつけ医に伝えられように整理している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職を配置し、病状の変化や気付いた事等を報告する様にしている。又、緊急を要する場合において、事業所内の看護職不在の際には、敷地内の看護職へ相談出来る体制が整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々のかかりつけ医との連携が図れる様に日頃から本人の情報を提供するとともに、事業所側が相談したい事項については、直ぐに相談出来る環境・体制が整っており、関係性も構築出来ている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際には、事業所で出来る事と出来ない事を明確に説明し、同意を頂いている。又、本人の状態に応じて、ご家族にはその都度、話し合いの場を設けている。主治医との連携により、状態変化が生じた際には、関係者等への相談・対応が出来る体制が整っている。	契約時に、事業所で出来る事、出来ない事の説明を行い同意を頂いている。母体の特養との連携が図れているが、看取り指針や重度化時のマニュアルはない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で話し合いを行い、事業所・かかりつけ医との連携も含め、マニュアルを作成している。マニュアルは、職員がいつでも見れる様に掲示、ファイルに綴じている。応急手当、初期対応については、定期的に勉強会を開催し、繰り返し学べる環境を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な年2回の災害避難訓練以外に、火災・地震・津波等の訓練を実施している。又、地域住民の方への参加も依頼し、実際に避難誘導を実施して頂いている。事業所内において、年間計画を立案し、月1回の勉強会を開催しており、各事業所との月1回、必要に応じて定期会議・訓練等の開催を実施している。各事業所と情報を共有する事により、実際に、災害が生じた際に協力出来る体制が整っている。	同敷地内の特養に温度調節のできる備蓄庫がある。災害時は、福祉避難所として受け入れることもあり、年2回、また法人として2回計4回の訓練を行っている。夜間訓練では実際に施設内の照明を落として実際の暗さも確認している。地域との訓練も実施しており、一人ひとりの状態を説明した上で訓練に臨んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が少なくなる時間帯や業務が立て込んでいる時間帯における言葉かけや対応が出来ていない事があるが、出来ていない場合においては、職員間で声を掛け合い、プライバシーを損ねないケアを心掛けて日々のケアを実践している。	利用者の立場に立ったケアを行うため、職員は自分がされたくないことはしないように努めている。また自分の家族と思って接するよう、理念に基づき、利用者の人生に学ぶ姿勢や、「朗働」を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や余暇時間、個別対応の中で本人の希望や、好みを聞きだし、自己決定された事を実現出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合等を優先してしまう事があり、職員間で利用者側の視点に立ち、望んだ生活の実現に向けて、現在、業務改善を実施し、取り組みを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着用したい衣類を選択して貰っている。外出時や行事等への参加の際には、化粧や衣類を着替えたり、おしゃれや身だしなみを整える事が出来ている。又、その方の生活歴で化粧をする事が日課となっている方への支援も実施出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の中で好みの食べ物やその日に食べたい物等を聞きだし、一緒に買い物へ出掛け、提供出来る様に支援している。季節感を感じる事が出来る様な献立の工夫を実践している。食前の準備や食後の片付け、調理の手伝い等、個々が出来る事を把握し、場面に応じた役割分担を行う事で、その方の中での役割が定着している。	夕食は利用者と一緒に献立を考え、専門的立場から栄養士の助言をもらい、利用者と一緒に買い物に出かけている。明るく和やかな食事風景である。食後は利用者自らが食器洗いやお盆拭きを行い、職員が労いの声掛けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時には、自宅や入所施設からの情報をもとに食事量や普段の食事の様子、嗜好等を確認している。個々の生活習慣を大切に、使い慣れた食器の持ち込みや飲み物・食べたい物を選択出来る様な工夫を行い支援している。体調の変化等によって、食事量等に変化があった場合には、敷地内の栄養士へ相談を行い支援出来る様に取り組みを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施する事が出来ている。口腔ケアの際には、職員が口腔内の観察を行い、異常があった場合には、歯科医への相談も行っている。又、個々に応じて口腔ケアの物品も準備してもらい、使用して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃の排泄ケアにおいて気付いた点等の情報を職員間で共有する事により、トイレでの排泄・出来る限り自立して排泄が出来る様な取り組みを実践していく事で尿取りパットやリハビリパンツ等の使用が減り、トイレでの排泄が出来る様になった利用者も増えている。	排泄表に基づき、職員が利用者のサインに気づき誘導を行っている。パット使用者が排泄自立に移行できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	様々な視点から、個々の便秘の原因を探り、普段の生活において、運動や水分補給等、個々に応じた便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の入浴希望者を聞く様にしており、入りたい日、入りたい時間に入浴が提供出来る様に配慮している。個々の入浴ペースや楽しく入浴出来る様に工夫をし、対応する事で入浴拒否がある方がスムーズに入浴出来る様になった事例もある。又、一般浴槽に入る事が出来ない利用者の方でもゆっくりと湯船に入って頂ける様に浴槽の工夫も行っている。	浴槽は座って入るタイプの特浴槽であり、一人ひとりお湯を使い切ることができる。入浴拒否がある方には、本人の状況をみながら誘導し、拒否が無くなった事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調・状況に応じて休息の時間を設定する等、配慮している。又、日中は活動的に生活を送って頂き、外出・散歩等の取り入れを行う事で夜間安眠出来る様な支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新人職員もおり、全職員が把握する事は出来ていないが、いつでも、誰が見ても分かる様にファイルを作成し、閲覧出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活状況を見て、本人の得意な事を活かし、それが本人の役割になったり、楽しみごとの1つになる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中で利用者の希望を聞き取り、戸外に出掛けたり、故郷ドライブ・買物・外食等の支援を実施している。その際には、場面に応じてご家族の協力を頂いたり、地域の方の協力も頂き出来る限り希望を実現出来る様に取り組んでいる。	1日1回の夕食の買い物に出かけている。生活していた場所に向く故郷ドライブを行ったり、受診の後に家族に連れて行ってもらう、働いていた場所での地域の方との再会もある。職員の提案で遠方へのドライブも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望される方は、ご家族へ相談を行い、個人の財布を準備して頂いている。個人の買い物の際には、その中から支払をして貰っている。又、夕食の食材買い出しの際には、レジにて支払をして貰い、お金を所持したり、使用できる様な環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を掛ける事が可能である。友人・ご家族からの手紙は、本人へ手渡しをし、読んで貰っている。ご家族や親族の方への年賀状のやり取りや、手紙のやり取りも実施出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは木材の使用や天井は、吹き抜けとなっており、開放的な空間となっている。又、季節感を感じる事が出来る様な展示物・掲示物の工夫を行っている。それらの物を見て今の季節を感じる事が出来ている場面もある。	木材の使用や天井の吹き抜け等、開放的で明るく温かい雰囲気がある。照明器具は優しい感じの物が使用されている。季節感を感じるような展示物や絵画が飾られ、落ち着ける空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、和室やソファを配置し、それぞれ気の合った利用者同士と一緒に過ごせる居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人・ご家族と相談しながら自宅で使用していた馴染みの物や大切な品、写真等を持ち込んで貰い、個々の特徴やこれまでの生活習慣を継続出来る様な思い思いの生活空間となっている。	家族の写真や時計、また利用者個人の個性が活かされた机や椅子が置いてあり、本人が落ち着いて過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人と相談をしながら、個々の状態に応じて、ベッドの配置や高さ、持ち込んだ家具等の配置を行っている。居室以外の場所においては、認識違いや判断ミスが最小限になる様な工夫を行い、自立して生活が送れる様に配慮している。		